

新潟地本をささえてきた



地本・退職者激励会開く 2009年11月23日・新潟市東映ホテル



NO. 676
発行
09・12月7日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
関川 和彦
編集責任者
教 宣 部




関川地本委員長 あいさつ

2009年

今回は激励会という名称に変更しました。これは、再雇用制度で60歳を超えても働いている現状になっているからです。それで、送別会という名称から激励会としました。

今日は、新たな職場へ行く門出としたいと思います。私から考えると、みなさんは、兄貴の世代、年代になります。今日、むかえるにあたって、あつという間のできごとだった、日本の鉄道輸送の安全や国労の指導的立場で奮闘してきた人達だと思います。マル生やスト権スト、国鉄の分割・民営化の攻撃など、厳しい闘いだったが新潟地本を、ささえてきた先輩方々でした。今後も頑張ってください。

今日は、思い出を語り合い、ゆっくり過ごしていただきたい。みなさんの今後の発展をお祈りし、健康で過ごしていただきたい。





今年から
は、退職者
送別会では
なく、退職
者激励会に
名称を変更
しました。

二〇〇九年退職者激励会が十一月二十三日、新潟市東映ホテルで開催されました。加藤組織部長の開会あいさつで始まり、冒頭、亡くなられた、上越線運輸区分会の関矢秀樹さんに、全体で黙祷を捧げました。

名が出席されました。
関川執行委員長のあいさつ、来賓には、退職者組合新潟地連の牛木事務局長、全交運共済新潟事業所の高橋所長が出席し、あいさつをしていただきました。

続いて、退職者の紹介及び賞状授与、全体での記念撮影、退職者あいさつなどありました。

第二部では、乾杯の後は、各支部・各分会の代表の方々から激励の言葉があり、会場は盛り上がりしました。全体の出席は二〇名でした。昔話など、いろいろと思いついた話を花を咲かせていました。

最後は、国鉄労働組合歌を全体で肩を組みながら唄いました。

来賓あいさつ



来賓あいさつでは、退職者組合新潟地連の牛木事務局長から「退職者組合は現在、一〇四六名の組織人員です。組合費は年間一千万。運動の課題は、年金・医療の問題に對しての取り組みを進めていくこと。そのために、他団体とも共同行動をしている。相談窓口にもなっている。国労組合員を退職した時に退職者組合に加入をお願いしたい。」とあいさつがありました。

全交通共済新潟事業所の高橋所長



からは「国労の闘いは、地域への共闘・共の取り組みです。共済制度は目前で運営、自主的にやっています。みなさんは六〇歳ですが今までと変わらない感じに見えます。今後、いろんな行動に参加してほしいです。」とあいさつがありました。



退職者 賞状授与者



退職者あいさつ

出席者

- 酒田支部 工藤義晴
- 直江津支部 吉田 武
- 中越支部 内藤隆司
- 新潟支部 小暮孝雄
- 白木晴男・芳原彰一
- 守橋久仁雄・井口隆司

エルダー社員として鉄道整備へ勤務している。引き続き国労組合員としてがんばっていく。

新潟で出向していて、酒田に帰ってからも最後まで出向だった。出向期間は十三年間だった。最後まで職場に復帰できなかった。しかし、もっと厳しい労働環境でがんばっている組合員もいるのでがんばっていく。国労の旗を守っていく。

八月から柿崎駅で働いている。厳しい労働環境だ。労働条件は、あって無いようなものだ。四年間くらいはがんばっていく。

小出駅にエルダーとして働いている。仕事の内容は変わらないが賃金は1/3になった。これからもがんばる。

三月に退職したが貨車で働いている。賃金は減額されたが仕事は同じだ。あと四年がんばる。

もう三年半がばってっていく。

公・私ともに長い間お世話になった。四月から出向している。勤務状況はプロパーは厳しい労働環境だ。国労として地域でも三年間運動を進めていく。

六月からエルダーで働いている。もう四年半がばってっていく。

